

兩派本山果して和解

石城民政俱樂部建物

牛町南町に在る石城民政俱樂部は、青年團長陸軍少佐、樂部の建物保存登記問題は、豫備中尉其他の肩書を有する、遂に告訴沙汰にまで進展したことは、本紙の報じた通りであるが、愈々司直の取調、良妻賢母の養成に奮闘して、及んで妥協案を提示する者現るに至つて、**格本山**と稱し、或は**別**が此處に一体を形成して、元格本山に比して政治専念大管長のもとに**末寺**となつて活動することとなるに就て、此の本山政務所たる俱樂部建物保存名義人中に別格派から二三名の加入をなさしむるの噂であるが、斯くの如き推移で大人物を自任して居る**有力者**揃へが圓滿居士となつて俱樂部大事にお勤めが出来れば幸なりと申すなり。

農村を(其五)

前編には「**救へよ 農村を**」と題して小學校教員の條給一部寄進を説いた。而して今や各町村六年度の豫算を見れば所謂緊縮豫算なるもので、人件費其他各項目に渡つて削減し出来るだけの切りのめをして居るが、教員給料には赤字が加へてない。是れはさう考へても不合理で堪らない。又非常な不快の念を湧出する其れで農村救済の一部としては小學校教員の減俸を必要とする。

私學派陣容

◎**佐賢學舎** 開校二十年の歴史を有する磐城佐賢學舎は大和田豊吉氏の人格と努力が今日の隆盛をなしたものであるが本年度よりは、特に農産科を設置して農村青年に科學的農事一般を教育する由。

◎**磐城青年學校** 地方青年の爲め特別教育を主眼として理想に走らず實際に活用し得る學問をなすしむるに苦心と努力を要しつゝある時代順應の學校である。

◎**藤田女學校** 校長藤田

農村に眞顔を向られよ

農業恐慌に依る農村の疲弊困憊は必然的に町村豫算中に教員費を削減したいのであるが、監督官廳のおふれもあり我慢して多くの手加減を加へないのである。よ此の人情味を諸君は解して居るや否や。

實際に豫算編成に當つては莫大なる教育費を削ぐに一番に削減したいのだ。其れには専任校長の廢止、高級職員の更迭、専任補習學校教員の廢止、現員

同様なきにも非らずである。吾等は農村の爲めの至善至美を賣つて居る小學校教員の給料減を叫ぶるに、派手な多きと會する隆昌とは産婆看護婦の學任給の引下げ昇給の停止等校として好成绩を示して居るのである。

◎**石城産科看護婦學校** 名の示す如く産婆と看護婦を養成する學校で古くは歴史の産んだ現象に他ならない。

一休教員自身は今迄余りに社會的にも又生活的にも恵まれ過ぎて、此の失業時代に學校を出た二十才前後の若者が地位と就職を保証されて卒業と同時に四十圓以上の報酬を受取るなど、彼等の職業の價値と仕事の積量から吟味して此の報酬は余りにも高價、失するの憾みが極めて濃厚ではないか。

教育に従事する尊き職業吾等は是等の尊稱に對して可成り不愉快を感じるものだが、教員は故に過重評價を難時代來るの觀がある。其れにも關らず現給で居られることは、誠に感附しであつて村民には感謝し、熱心に教鞭をたらさなくてはならないの來るべき四月の恒例小學校教員異動期を前に所謂先生さまと云ふ言葉を辛直に切言するものである。

其處で彼等に一片の教育的良心があるならば大學出でさへ四十圓程度に評價される今日、我農村のために眞に教鞭をたどり居るならば從來の待遇の

磐城佑賢學舎

昭和六年
復興
第三年
第一學年 壹百廿名
第二學年 若干名
入學資格 小學校卒業以上
出願期日 四月六日迄
新學期開始 四月六日
築實固 (規則書申込次第進呈)

磐城青年學校

科 師範科 五十名 裁縫専修科 百名
別 二年編入補欠若干名
文部大臣藤田女學校生徒募集
其 希望者一急願書提出ノ事
他 詳細ハ本校宛則請求ノ事
昭和六年三月
福島縣平町
藤田女學校
電話三二八番

大聲叱呼して農村救済のためこれに提唱するも、以所である吾等は他迄願ひて教育者らしくせよ

文部大臣平陽女學校入學案内
募集人員

師範科	二十名
技藝高等科	二十名
全速成科	二十名
専攻科	二十名
一年卒業	二十名
二年卒業	二十名
三年卒業	二十名

右各科共入學ヲ許シマシム希望者ハ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ三月末日迄提出シテ下サイ
入學願書ハ本校宛申越下サレバ差上マシム
福島縣平町
平陽女學校
電話 四四 五番

近代的日本は婦人にも經濟的獨立を呼かけて参りました。婦人にも又職業によつて經濟的獨立を計りませう
その婦人に最も易い似つかわしい職業は何でせう、それは
産婆看護婦が一番です
僅か一ケ年で卒業が出来
収益も大で且家政の内助も出来る産婆看護婦の職業は緊縮の世に一番適して居ります
◎御希望の方は古い歴史と縣下第一の好成绩を誇る當校へ(規則書申込次第進呈)

産婆 看護婦
修業年限 兩科を通し一ケ年
願書提出 三月卅一日限り
詳細は學校宛申込まれたし
婦人にも職業の必要な時代が参りましたとして婦人にふさわしい職業は産婆看護婦であります
平陽女學校
校長 清野きよよ
平町南町 電話三三〇七番